

中間連結損益計算書(要旨)

(単位:千円) (単位:%)

区分	当中間期 (自 2006年4月 1日 至 2006年9月30日)	前中間期 (自 2005年4月 1日 至 2005年9月30日)	増減率
売上高	8,450,215	6,819,804	23.9
売上原価	4,884,096	4,508,425	8.3
売上総利益	3,566,119	2,311,379	54.3
販売費及び一般管理費	3,221,017	2,290,054	40.7
営業利益	345,102	21,325	1,518.3
営業外収益	516	81,108	△99.4
営業外費用	2,290,813	37,575	5,996.5
経常利益又は経常損失(△)	△1,945,195	64,858	—
特別利益	738	853,112	△99.9
特別損失	58,927	531,711	88.9
税金等調整前中間純利益 又は税金等調整前中間純損失(△)	△2,003,384	386,259	—
法人税、住民税及び事業税	17,306	355,223	95.1
過年度法人税等	40,844	—	—
法人税等調整額	98,650	79,109	24.7
少数株主利益又は少数株主損失(△)	23,494	△146,047	—
中間純利益又は中間純損失(△)	△2,183,680	97,973	—

売上高・営業利益

当中間期の売上高は、引き続きニケタ成長を達成したモバイルコンテンツ事業の伸長や、海外事業をはじめとする新たな子会社の連結もあり、8,450百万円と前年同期比で1,630百万円増(23.9%増)となり、中間期過去最高を更新しました。

営業利益は、売上高増加要因に加え、主にモバイルコンテンツ事業における原価率の改善により、海外子会社に係るのれん償却等の影響があったものの、345百万円と前年同期比323百万円(1,518.3%増)の大幅増加となりました。

経常利益・中間純利益

経常利益は、当中間期末において当社持分法適用関連会社であった株式会社JIMOS株式に係るのれん相当分の追加償却を主とする持分法による投資損失1,900百万円の計上により、1,945百万円の損失計上となりました。また、中間純利益は、経常損失の影響から2,183百万円の純損失計上となりました。

当中間業績は、株式会社JIMOSの株式に係る評価損失が著しく影響いたしました。当該損失はあくまでも金融商品会計基準に基づき、その計上を行ったものであります。一方、本業の経営成績におきましては、単体および連結営業利益は改善基調にあり、連結での営業活動によるキャッシュ・フローも274百万円の増加となったことから、既存事業を主体とする収益力強化は着実に進んでおります。

連結グループの事業別概況 >>>

モバイルコンテンツ事業

売上高は、5,739百万円と前年同期比で597百万円増(11.6%増)となり、前年中間期同様、ニケタ成長を維持し、中間期ベースで過去最高を更新いたしました。当事業は、『江原啓之スピリチュアルメッセージ』や『鏡リュウジ恋占術』等、ブランド力のある主力コンテンツの継続的な会員数増加により、引き続き堅調に推移しております。

マーケティングソリューション事業

売上高は、1,229百万円と前年同期比で342百万円減(21.8%減)となりました。クライアント企業のモバイルサイト運用や技術関連子会社の収益は堅調であったものの、開発受託において前年中間期に大型案件収益の計上があったことの影響や、当期よりカスタマーサポート子会社が非連結となったことが、売上高減少の主な要因であります。

Eコマース事業

売上高は154百万円と前年同期比で52百万円増(51.7%増)となりました。前年下期より配信を開始した株式会社JIMOSとの共同ショッピングサイト『deBINGOスクエア』の売上高増加が寄与いたしました。同サイトにおける取扱商品数の拡大や、ユーザーの属性・嗜好等に合わせた商材の推奨、また販促メールのリッチ化等の諸施策により、当事業の着実な成長を図っております。

「deBINGOスクエア」
買い物をすると同時に、ビンゴでさまざまな商品の当たるチャンスも!!エンタテインメント性の高さが魅力です。



広告事業

前年中間期に設立したモバイル広告商品の開発子会社となる株式会社プラスモバイルコミュニケーションズを中心として当事業を推進し、当中間期での売上高は69百万円の計上となりました。引き続き、有カクライアントの獲得を進めてまいります。

投資事業

2005年12月に当社100%出資により、投資事業推進を目的として株式会社サイバード・インベストメント・パートナーズを設立し、同社運営・管理のもと、「サイバード・プラスモバイル・ファンド(注)」を組成し、運用しております。その結果、当中間期は、143百万円の売上高計上となりました。

(注)当該ファンドは、当社グループが有するモバイル・インターネット技術に関するプラットフォームやノウハウを提供することで、企業価値向上が見込まれる企業を主な投資対象とした国内初のモバイルビジネスファンドであります。

海外事業

前年下期より新たに連結した、Airborne Entertainment Inc. (北米コンテンツプロバイダー)の収益により、海外事業の売上高は、1,113百万円となりました。ブランド力のある人気待受画像やゲームコンテンツの課金収益により、足元業績は堅調に推移しております。今後は同社の子会社を通じた「Ring Back Tone(注)」関連収益の寄与も期待されております。

また、同社は、北米で2001年から2005年までの過去5年にわたり、テクノロジー、メディア、テレコミュニケーション、ライフサイエンス分野において著しい成長を遂げた企業を選出する『Deloitte's 2006 Technology Fast500(主催: Deloitte & Touche USA LLP)』において4位に選ばれております。

(注)携帯電話の呼び出し音の代わりに設定した音楽や声の流れるサービス。

中間連結貸借対照表(要旨)

(単位:千円) (単位:%)

区分	当中間期末 (2006年9月30日現在)	前中間期末 (2005年9月30日現在)	増減率
《資産の部》			
I 流動資産			
現金及び預金	2,060,808	2,935,154	
受取手形及び売掛金	3,949,713	3,632,215	
たな卸資産	11,092	43,219	
その他	768,157	440,154	
貸倒引当金	△25,185	△30,417	
流動資産計	6,764,586	7,020,326	△3.6
II 固定資産			
有形固定資産計	307,177	319,902	△4.0
(無形固定資産)			
ソフトウェア	599,658	686,242	
連結調整勘定	—	74,007	
営業権	—	6,105,643	
のれん	5,917,427	—	
その他	213,891	140,538	
無形固定資産計	6,730,977	7,006,432	△4.0
(投資その他の資産)			
投資有価証券	1,547,163	3,300,403	
敷金	454,274	430,361	
その他	766,702	681,433	
貸倒引当金	—	△3,202	
投資その他の資産計	2,768,140	4,408,995	△37.2
固定資産計	9,806,295	11,735,330	△16.4
資産合計	16,570,881	18,755,656	△11.6

当中間期末の資産合計は16,570百万円となりました。また、負債合計は5,551百万円、新株予約権と少数株主持分を含む純資産合計は11,019百万円となりました。当中間期末において当社持分法適用関連会社であった株式会社JIMOSの同社株式に係る損失計上により、投資その他の資産計が大きく減少しております。また、前期に取得した海外子会社株式の対価のうち、未払分であった20百万USドル(2,357百万円)の支払いに際し、相当分の借入を実施したことから、前期末より未払金が減少し、短期借入金が増加しております。

(単位:千円) (単位:%)

区分	当中間期末 (2006年9月30日現在)	前中間期末 (2005年9月30日現在)	増減率
《負債の部》			
I 流動負債			
買掛金	1,666,526	1,496,182	
短期借入金	2,654,855	300,385	
未払金	417,792	3,272,072	
未払法人税等	34,404	376,071	
賞与引当金	94,924	40,090	
その他	188,402	152,029	
流動負債計	5,056,906	5,636,830	△10.3
II 固定負債			
社債	370,500	75,000	
長期借入金	104,733	160,675	
退職給付引当金	18,948	22,239	
その他	—	2,072	
固定負債計	494,182	259,986	90.1
負債合計	5,551,088	5,896,817	△5.9
《少数株主持分》			
少数株主持分	—	402,881	
《資本の部》			
I 資本金	—	5,426,925	
II 資本剰余金	—	5,483,621	
III 利益剰余金	—	1,692,441	
IV その他有価証券評価差額金	—	5,424	
V 為替換算調整勘定	—	△152,454	
資本合計	—	12,455,957	
負債、少数株主持分及び資本合計	—	18,755,656	
《純資産の部》			
I 株主資本			
資本金	5,503,317	—	
資本剰余金	5,560,012	—	
利益剰余金	△771,358	—	
株主資本合計	10,291,971	—	
II 評価・換算差額等			
その他有価証券評価差額金	10,316	—	
為替換算調整勘定	△56,132	—	
評価・換算差額等合計	△45,816	—	
III 新株予約権	3,555	—	
IV 少数株主持分	770,082	—	
純資産合計	11,019,793	—	
負債及び純資産合計	16,570,881	—	

中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:千円)

区分	当中間期 (自2006年4月1日 至2006年9月30日)	前中間期 (自2005年4月1日 至2005年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	274,858	△905,919
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,589,730	△3,987,227
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,431,765	4,429,324
現金及び現金同等物に係る換算差額	△3,077	△103,685
現金及び現金同等物の増加額・減少額(△)	113,816	△567,507
現金及び現金同等物の期首残高	1,697,936	3,253,984
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,811,752	2,686,477

当中間期末の現金及び現金同等物は1,811百万円となり、前期末比で113百万円の増加となりました。当中間期における各キャッシュ・フローの状況および要因は右のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業利益345百万円の計上に加え、減価償却費と海外子会社に係るのれん償却計441百万円や、売上債権の減少、ならびに仕入債務の増加等があった一方で、法人税等の支払324百万円等により、営業活動によるキャッシュ・フローは274百万円の増加(前年同期は905百万円の減少)となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

主に海外子会社株式の取得対価のうち前期末払分に対する支払20百万USドル(2,357百万円)があったことから、投資活動によるキャッシュ・フローは2,589百万円の減少(前年同期は3,987百万円の減少)となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローの減少要因である海外子会社株式取得に対する支払いを短期借入金によって賄ったことから、財務活動によるキャッシュ・フローは2,431百万円の増加(前年同期は4,429百万円の増加)となりました。

中間連結株主資本等変動計算書 (自2006年4月1日 至2006年9月30日)

(単位:千円)

	株主資本				評価・換算差額等			新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計			
2006年3月31日残高	5,451,700	5,508,395	1,450,860	12,410,956	2,829	10,592	13,422	—	723,331	13,147,710
中間連結会計期間中の変動額										
新株の発行	51,616	51,616	—	103,233	—	—	—	—	—	103,233
剰余金の配当	—	—	△38,538	△38,538	—	—	—	—	—	△38,538
中間純損失	—	—	△2,183,680	△2,183,680	—	—	—	—	—	△2,183,680
株主資本以外の項目の 中間連結会計期間中の変動額(純額)	—	—	—	—	7,486	△66,725	△59,238	3,555	46,751	△8,932
中間連結会計期間中の変動額合計	51,616	51,616	△2,222,218	△2,118,985	7,486	△66,725	△59,238	3,555	46,751	△2,127,917
2006年9月30日残高	5,503,317	5,560,012	△771,358	10,291,971	10,316	△56,132	△45,816	3,555	770,082	11,019,793